

広島大学 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 広島大学整形外科専門研修後の成果
3. 広島大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャリティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様には質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 広島大学整形外科専門研修後の成果

広島大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3. 広島大学整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、上肢、下肢、脊椎などの広範な診療領域を扱います。高齢化型社会をむ

かえた我が国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、広島大学整形外科では、運動器官を構成する骨・軟骨・筋・靱帯・神経などの疾病・外傷を対象として、その病態解明と治療法の開発および診療を行っています。対象となる治療部位は上肢、下肢、脊椎・脊髄、骨盤など多岐にわたり、新生児から高齢者まで様々な年齢層の患者さんの治療を行っています。我が国では著しい高齢化が進んでおり、整形外科の患者数は年々増加の一途を辿っています。運動器疾患・障害により就労・就学・スポーツ活動が妨げられている患者さんの早期の社会復帰をサポートするために、我々はより高い水準の治療を提供します。広島大学整形外科では膝関節・スポーツ医学、脊椎、股関節、上肢・手外科、足の外科、リウマチ、リハビリテーションなどの診療・研究グループがあります。連携施設は、スポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった約 30 におよぶ施設、病院があり、機能的なローテーションにより、プライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

広島大学整形外科は昭和 32 年の開設以降、あらゆる整形外科疾患に対処できるよう、整形外科領域の各分野の専門家が研鑽を積み、海外にも引けを取らないトップレベルの診療を提供できる体制を整えてきました。また、広島はスポーツの盛んな土地柄であり、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、JT サンダーズをはじめ多くのプロスポーツを擁しています。選手のパフォーマンスを支えることも重要な責務となっており、選手のスポーツ傷害に対して適切な治療を行っています。

4. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、広島大学病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日

本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の 3 月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は 1 ヶ月の研修を 1 単位とする単位制を取り、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の 10 の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3 年 9 ヶ月間で 45 単位を修得する修練プロセスで研修します。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表(図 1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

専攻医は 1 年目 4 月上旬の専門研修プログラム管理委員会主催のクルーズ（1 泊 2 日合宿）に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

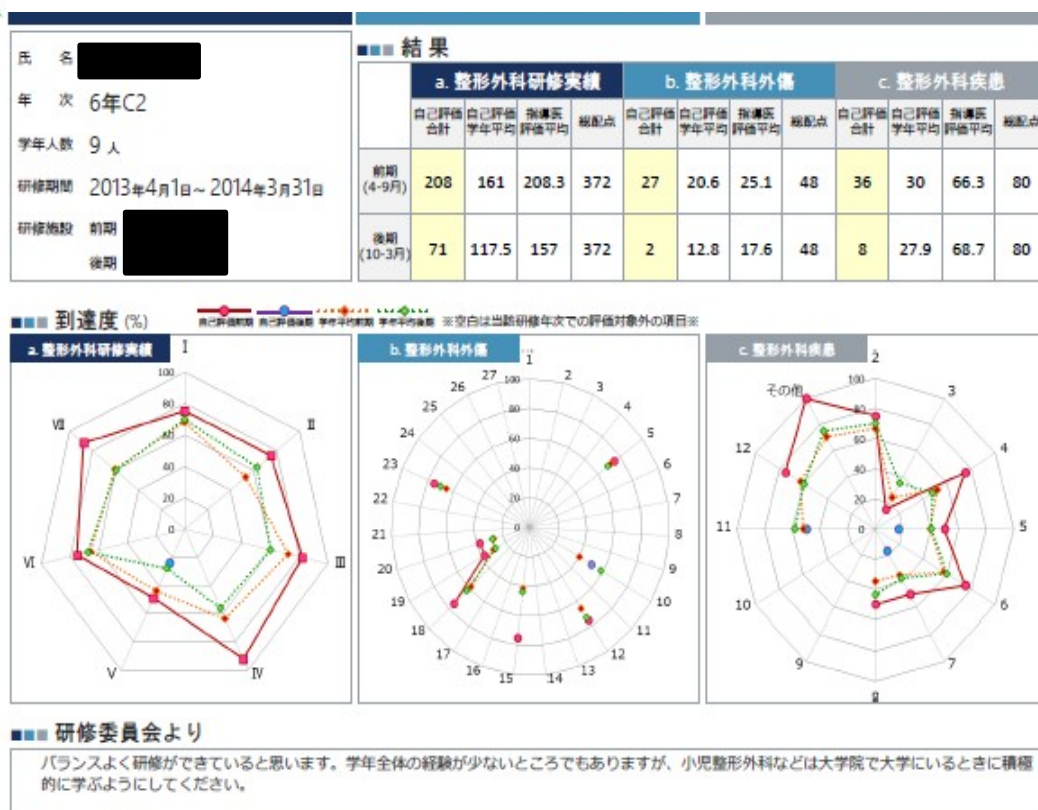
② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能習得状況を 6 ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年 1 回行い、評価したデータをまとめた評価表（図 1）を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。



整形外科ネットワーク広島大学 研修年次評価表 （平成 25 年度）



③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」

に明示された症例数以上を広島大学病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「レジデントデイ」を年 1 回開催します。研究指導は各施設の指導医が行います。

⑥ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医 1 人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年 1 回以上、また論文執筆を年 1 本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年 1 回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦ コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

広島大学病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は広島県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院を含みます。すべての専攻医は広島県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に 3 ヶ月以上勤務します。地域内での活動として、研修期間内に 1 回以上、小学校での小児運動器検診などに参加します。

⑨ サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの広島大学病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が複数施設ずつ含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を 6 ヶ月に 1 回行い、
(9

月末および 3 月末) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた広島大学病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年 1 回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

一般社団法人整形外科ネットワーク広島に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年 4 回の定期委員会（6, 9, 12, 3 月）を開催します。

3 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。

必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、整形外科ネットワーク広島に報告します。活動報告および研修プログラムは一般社団法人整形外科ネットワーク広島ホームページで公開します。

③プログラムとしての FD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年 1 回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1 回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） 専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
 - ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
 - ③臨床医として十分な適性が備わっていること
 - ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
 - ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。
- 以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

広島大学病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。茨城県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【広島大学週間及び月間予定表】

分野	指導医数	週間スケジュール				
		月	火	水	木	金
膝関節	4	AM 外来	AM 手術	AM 総回診、外来	AM 病棟業務	AM 手術
		PM 病棟業務	PM 手術	PM 病棟業務 膝症例検討会	PM 病棟業務	PM 手術
手外科	3	AM 外来	AM 外来	AM 総回診	AM 病棟業務	AM 手術
		PM 病棟業務	PM 手術	PM 病棟業務	PM 手術症例検討会	PM 手術
脊椎・脊髄	3	AM 外来 電気生理検査	AM 病棟業務	AM 総回診	AM 外来	AM 病棟業務
		PM 病棟業務	PM 手術	PM 病棟業務 脊髄造影検査	PM 病棟業務	PM 手術
股関節	1	AM 病棟業務	AM 手術	AM 総回診、外来	AM 外来	AM 手術
		PM 病棟業務	PM 病棟業務	PM 病棟業務	PM 外来	PM 病棟業務 手術症例検討会
肩関節	1	AM 病棟業務	AM 外来	AM 総回診、外来	AM 病棟業務	AM 病棟業務
		PM 病棟業務	PM 手術 肩症例検討会	PM 病棟業務	PM 病棟業務	PM 手術
足外科	1	AM 外来	AM 手術	AM 総回診	AM 病棟業務	AM 手術
		PM 病棟業務	PM 手術	PM 病棟業務 手術症例検討会	PM 病棟業務	PM 手術
救急・外傷	2	AM 外来	AM 手術	AM 総回診	AM 病棟業務	AM 手術
		PM 病棟業務	PM 手術	PM 病棟業務 手術症例検討会	PM 病棟業務	PM 手術

月間予定表						
		広島大学病院 後期研修医 月間スケジュール				
		月	火	水	木	金
	第1週			AM 総回診		
		PM 研修医症例検討会	PM リハビリカンファ			PM 振り返り

			リサーチカンファレンス	X線カンファレンス		週末申し送り
	第2週			AM 総回診		
		PM 研修医症例検討会	PM リハビリカンファ			PM 振り返り
		放射線科合同カンファ	リサーチカンファレンス	X線カンファレンス		週末申し送り
	第3週			AM 総回診		
		PM 研修医症例検討会	PM リハビリカンファ			PM 振り返り
		放射線科合同カンファ	リサーチカンファレンス	X線カンファレンス		週末申し送り
	第4週			AM 総回診		
		PM 研修医症例検討会	PM リハビリカンファ		PM 病棟連絡会	PM 振り返り
		放射線科合同カンファ	リサーチカンファレンス	X線カンファレンス		週末申し送り
	備考					
	・研修医症例検討会は総回診でプレゼンテーションする症例について指導医および上級医が指導するものである					
	・病棟連絡会はナースとの連絡会議である					
	・振り返りは1週間の研修を病棟医長と振り返るものである					
	・第4週火曜日のクリニカルカンファレンスでより深く学習した1例について学会発表形式で報告する					

本プログラムの連携施設は 32 施設（広島大学病院、広島西医療センター、県立広島病院、JA広島総合病院、呉医療センター中国がんセンター、市立三次中央病院、松山赤十字病院、中国労災病院、県立安芸津病院、マツダ病院、広島県立身体障害者リハビリテーションセンター、公立世羅中央病院、済生会広島病院、JA吉田総合病院、土谷総合病院 広島手の外科・微小外科研究所、三菱三原病院、東広島医療センター、中電病院、松山市民病院、市立八幡浜総合病院、庄原赤十字病院、市立安佐市民病院、JA尾道総合病院、JR広島病院、広島共立病院、安芸太田病院、広島市民病院、広島通信病院、三原市医師会病院、府中北市民病院、広島市総合リハビリテーションセンター、吉島病院、済生会呉病院）です。このうち県立広島病院、JA広島総合病院、JA吉田総合病院、広島西医療センター、市立三次中央病院、庄原赤十字病院、安芸太田病院、市立安佐市民病院は、広島県へき地医療拠点病院、また市立八幡浜総合病院は、愛媛県へき地医療拠点病院に該当しま

す。それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表と専攻医毎の年次別単位取得計画、指導医と指導分野を下表に示します。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門
研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

【広島大学整形外科専門研修プログラム 専攻医ローテーション表】

I. 研修病院群と指導可能な研修領域

医療機関	指導可能な研修領域										
	a 脊椎 6 単位	b 上肢・手 6 単位	c 下肢 6 単位	d 外傷 6 単位	e リウマチ 3 単位	f リハビリ 3 単位	g スポーツ 3 単位	h 地域医療 3 単位	i 小児 2 単位	j 腫瘍 2 単位	流動 8 単位
広島大学病院	●3	●3	●6	●2	●1	●3	●3		●3	●3	●
広島西医療センター		●	●	●		●		●			
県立広島病院	●	●2	●	●		●	●	●	●	●	
JA 広島総合病院	●2	●	●	●	●	●	●		●	●	
呉医療センター中国がんセンター	●	●	●	●	●	●	●		●	●2	
三次中央病院		●		●				●			
松山赤十字病院	●2	●	●	●	●	●	●		●	●	
中国労災病院	●2	●	●	●2	●	●			●	●	
県立安芸津病院		●	●	●		●	●	●			
マツダ病院		●	●	●	●	●	●				
広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	●	●	●	●	●	●2	●		●		
公立世羅中央病院		●				●		●			
済生会広島病院	●	●	●	●		●	●			●	
JA 吉田総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
土谷総合病院 広島手の外科・微小外科研究所		●	●	●	●	●					
三菱三原病院	●			●		●		●			
東広島医療センター	●	●	●	●		●	●				
中電病院	●	●	●	●		●	●		●		
松山市民病院	●	●	●	●		●	●		●		
市立八幡浜総合病院		●	●	●		●		●			
庄原赤十字病院		●	●	●	●	●		●		●	
安佐市民病院	●2	●	●	●	●	●	●		●	●	
JA 尾道総合病院	●	●	●2	●		●	●			●	
JR 広島病院	●		●	●		●					
広島共立病院		●	●	●	●	●	●			●	
安芸太田病院	●					●		●			
広島市民病院	●	●	●	●	●	●	●			●	

広島通信病院		●	●	●		●					
三原市医師会病院			●	●		●					
府中市市民病院			●	●				●			
広島市総合リハビリテーションセンター						●					
吉島病院			●	●		●					
済生会呉病院			●	●		●					

II. 研修病院別ローテーション表

医療機関	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
広島大学病院		専攻医 1-6 専攻医 7-12		
広島西医療センター		専攻医 6		専攻医 1
県立広島病院	専攻医 1		専攻医 9	
JA 広島総合病院	専攻医 2		専攻医 10	
呉医療センター中国がんセンター	専攻医 3		専攻医 11	
三次中央病院		専攻医 7 専攻医 1		専攻医 3
松山赤十字病院	専攻医 4		専攻医 1	
中国労災病院	専攻医 5		専攻医 2	専攻医 12
県立安芸津病院		専攻医 8 専攻医 2		
マツダ病院	専攻医 6		専攻医 3	
広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	専攻医 7		専攻医 4	
公立世羅中央病院				
済生会広島病院			専攻医 5	
JA 吉田総合病院		専攻医 9 専攻医 3		専攻医 6
土谷総合病院 広島手の外科・微小外科研究所				
三菱三原病院				
東広島医療センター			専攻医 6	専攻医 4
中電病院				専攻医 5
松山市民病院	専攻医 12		専攻医 7	
市立八幡浜総合病院		専攻医 10 専攻医 4		
庄原赤十字病院		専攻医 11 専攻医 5		専攻医 2
安佐市民病院	専攻医 8		専攻医 12	専攻医 10
JA 尾道総合病院	専攻医 9			専攻医 8
JR 広島病院	専攻医 10			専攻医 7
広島共立病院				専攻医 9
安芸太田病院		専攻医 12		
広島市民病院	専攻医 11		専攻医 8	
広島通信病院				
三原市医師会病院				
府中市市民病院		専攻医 8		
広島市総合リハビリテーション病院				
吉島病院				
済生会呉病院				専攻医 11

	医師不足地域中核病院
	医師不足地域中小病院

専攻医別取得単位（取得合計 45 単位：a6, b6, c6, d6, e3, f3, g3, h3, i2, j2, k5）

	1 年目	2 年目前半	2 年目後半	3 年目	4 年目
専攻医 1	a3, b3, d3, j2, k1	b3, e3	g3, h3	a3, c3, f3, i2, k1	c3, d3, k3
専攻医 2	a6, b3, e3	i2, b3, k1	f3, h3	c6, d3, g3	d3, j2, k4
専攻医 3	a3, b3, e3, f3	i2, j2, k2	a3, h3	b3, c3, d3, g3	c3, d3, k3
専攻医 4	a3, b3, e3, f3	i2, j2, k2	c3, h3	a3, d6, g3	b3, c3, k3

専攻医 5	a3, b3, e3, f3	g3, k3	c3, h3	a3, b3, d3, j2, k1	c3, d3, i2, k1
専攻医 6	b3, e3, f3, g3	i2, k4	c3, h3	a3, c3, d6,	a3, b3, j2, k1
専攻医 7	a3, b3, e3, f3	d3, h3	c3, k3	c3, d3, g3, i2, k1	a3, b3, j2, k1
専攻医 8	a3, b3, e3, f3	d3, h3	g3, k3	a3, b3, c3, i2, k1	c3, d3, i2, k1
専攻医 9	a3, b3, d3, f3	c3, h3	g3, k3	a3, d3, e3, i2, k1	b3, c3, j2, k1
専攻医 10	b3, c3, d3, f3	d3, h3	g3, k3	a3, b3, c3, e3	a3, i2, j2, k2
専攻医 11	a3, b3, e3, i2, k1	d3, h3	b3, k3	a3, c3, g3, j2, k1	c3, d3, f3
専攻医 12	a3, b3, d3, f3	b3, h3	g3, k3	a3, d3, e3, i2, k1	c6, j2, k1

専門研修施設群 専門研修指導医 一覧

施設名	指導医名	指導分野 1	指導分野 2	指導分野 3
広島大学病院	安達伸生	c	f	g
広島大学病院	久保忠彦	f	i	j
広島大学病院	中西一義	a	d	j
広島大学病院	山崎琢磨	c	e	i
広島大学病院	亀井直輔	a	d	f
広島大学病院	中前敦雄	c	e	g
広島大学病院	中島祐子	b	e	i
広島大学病院	石川正和	c	f	g
広島大学病院	横矢 普	b	d	g
広島大学病院	四宮陸雄	b	e	i
広島大学病院	中佐智幸	c	d	g
広島大学病院	中前稔生	a	d	g
広島大学病院	児玉 祥	b	d	e
広島大学病院	古田太輔	d	i	j
吉島病院	下垣浩一	c	d	f
公立世羅中央病院	來嶋也寸無	b	f	h
中国労災病院	笹重善朗	c	d	f
中国労災病院	益田泰次	b	i	j
中国労災病院	藤本英作	c	e	i

中国労災病院	佐々木浩文	a	d	j
中国労災病院	堀 淳司	c	d	f
中国労災病院	中邑祥博	b	d	i
JR 広島病院	佐々木正修	a	d	f
JR 広島病院	中村精吾	c	d	f
JR 広島病院	村尾 保	c	d	f
JR 広島病院	土井一義	a	c	f
JR 広島病院	藤岡悠樹	a	d	f
JR 広島病院	須賀紀文	c	d	g
広島市立安佐市民病院	真鍋英喜	a	d	j
広島市立安佐市民病院	藤原 靖	a	d	e
広島市立安佐市民病院	西森 誠	c	d	g
広島市立安佐市民病院	吉田友和	c	d	i
広島市立安佐市民病院	角西 寛	b	d	f
広島市立安佐市民病院	泉 文一郎	a	e	i
広島市立安佐市民病院	大田 亮	a	g	j
庄原赤十字病院	大作浩一	b	e	h
庄原赤十字病院	木曾伸浩	b	d	e
庄原赤十字病院	水野俊行	c	f	h
JA 尾道総合病院	杉田 孝	d	f	j
JA 尾道総合病院	数面義雄	c	f	g
JA 尾道総合病院	盛谷和生	b	c	j
JA 尾道総合病院	田中 恒	a	d	f
JA 尾道総合病院	清水 良	b	c	d
松山市民病院	萩山吉孝	a	d	f
松山市民病院	宮本礼人	c	g	i
松山市民病院	久保貴博	a	d	f
松山市民病院	大坪 晋	b	d	g
松山市民病院	住吉範彦	a	e	f
中電病院	岩森 洋	c	f	i

中電病院	高橋和寛	a	d	f
中電病院	濱木隆成	c	f	g
中電病院	村上弘明	b	c	d
広島西医療センター	岩崎洋一	d	f	h
広島西医療センター	永田義彦	b	c	d
広島逋信病院	進藤 明	b	d	f
広島逋信病院	松永匡史	b	c	d
済生会広島病院	新田泰章	a	f	j
済生会広島病院	田中久美	b	d	j
済生会広島病院	伊藤洋平	a	c	g
広島県立安芸津病院	後藤俊彦	c	d	h
広島県立安芸津病院	高田剛志	c	f	g
安芸太田病院	水野芳隆	a	f	h
安芸太田病院	川西啓生	b	c	d
市立八幡浜総合病院	堀田恵司	c	f	h
市立八幡浜総合病院	温泉川一喜	b	d	f
市立八幡浜総合病院	濱西道雄	c	d	f
土谷総合病院	木森研治	b	d	e
土谷総合病院	小林孝明	c	d	f
広島県立障害者リハビリテーションセンター	水関隆也	b	d	e
広島県立障害者リハビリテーションセンター	安永裕司	c	d	f
広島県立障害者リハビリテーションセンター	宮下裕行	c	d	g
広島県立障害者リハビリテーションセンター	藤井二郎	c	d	g
広島県立障害者リハビリテーションセンター	志村 司	c	d	i
広島県立障害者リハビリテーションセンター	鈴木修身	b	d	e

広島県立障害者リハビリテーションセンター	田中隆治	c	d	g
広島県立障害者リハビリテーションセンター	當天賢子	a	d	i
広島市立広島市民病院	石田 治	b	e	f
広島市立広島市民病院	曾田是則	c	d	g
広島市立広島市民病院	夏 恒治	b	d	f
広島市立広島市民病院	中村光宏	c	d	g
広島市立広島市民病院	竹内実知子	b	e	i
広島市立広島市民病院	力田高德	a	f	i
JA 吉田総合病院	竹本正瑞	b	f	j
JA 吉田総合病院	定地茂雄	b	e	h
JA 吉田総合病院	本山 満	c	g	i
JA 吉田総合病院	山本りさこ	a	d	h
JA 吉田総合病院	加藤智弘	c	d	f
三菱三原病院	北平裕史	a	f	h
三菱三原病院	十時 龍	d	f	h
広島共立病院	市川 誠	b	e	f
広島共立病院	田中玄之	c	d	j
広島共立病院	森 雅典	c	d	e
広島共立病院	中林昭裕	b	f	g
府中北市民病院	世良 哲	c	d	h
マツダ病院	奥平信義	b	d	f
マツダ病院	月坂和宏	c	e	g
マツダ病院	菊川和彦	b	d	g
マツダ病院	田中正宏	d	f	g
マツダ病院	奥原淳史	c	d	f
JA 広島総合病院	藤本吉範	a	f	g
JA 広島総合病院	田中信弘	a	d	e
JA 広島総合病院	山田清貴	a	d	i

JA 広島総合病院	平松 武	a	c	j
JA 広島総合病院	橋本貴士	b	d	e
県立広島病院	望月 由	b	d	g
県立広島病院	井上博幸	c	f	h
県立広島病院	松尾俊宏	c	d	j
県立広島病院	西田幸司	a	f	i
県立広島病院	亀井豪器	c	d	g
市立三次中央病院	杉岡敏博	b	d	h
済生会呉病院	水野尚之	c	d	f
呉医療センター	濱田宜和	c	d	e
呉医療センター	下瀬省二	c	f	j
呉医療センター	蜂須賀裕巳	b	e	i
呉医療センター	濱崎貴彦	a	d	f
呉医療センター	泉田泰典	c	d	g
呉医療センター	藤森 淳	c	d	j
呉医療センター	森 亮	b	c	g
呉医療センター	大川新吾	c	f	g
松山赤十字病院	中城二郎	c	d	f
松山赤十字病院	野田慎之	a	d	j
松山赤十字病院	梶原了治	b	d	e
松山赤十字病院	大前博路	b	d	g
松山赤十字病院	大島誠吾	c	d	i
松山赤十字病院	志摩隆之	a	d	f
松山赤十字病院	江口明生	c	d	g
東広島医療センター	岸 和彦	b	c	d
東広島医療センター	今田英明	b	d	g
東広島医療センター	渋谷早俊	c	d	g
東広島医療センター	宇治郷諭	a	d	f
広島市立リハビリテーション病院	西川公一郎	f		

三原市医師会病院	安原慎治	c	d	f
----------	------	---	---	---

6. 専門研修プログラムを支える体制 ①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である広島大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために広島大学病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置き、また、このプログラムが11名の専攻医を有することから副プログラム統括責任者を1名置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

② 基幹施設の役割

基幹施設である広島大学病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

広島大学病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④ プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部

分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

- 3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。
- 4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に
関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。
- 6) 広島大学病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。広島大学病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である広島大学病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥ 労働環境、労働安全、勤務条件

広島大学病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・ 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・ 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・ 施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】 各年次 12 名 合計 48 名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から下記のようになり、その各施設宇族の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次 12 名、合計 48 名と設定しました。

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

広島大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/seikei/>

必要書類：① 申請書（ダウンロード）

② 履歴書（ダウンロード）

③ 医師免許証（コピー）

④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）

⑤ 健康診断書

【募集期間】 7 月末～9 月 30 日

【問い合わせ先】

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

広島大学 大学院医歯薬保健学研究科

医歯薬学専攻医学講座 整形外科学

担当： 安達 伸生 （研修プログラム統括責任者）

Tel: 082-257-5233 Fax: 082-257-5234

seikei@hiroshima-u.ac.jp